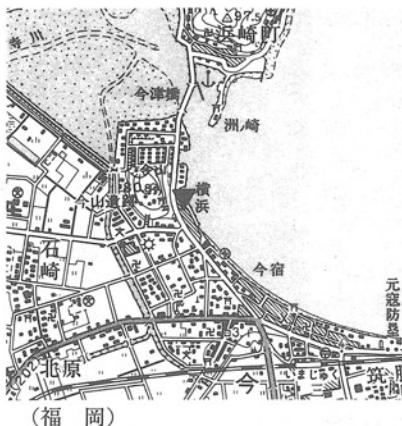


福岡・今山遺跡 (いまやま)



(福岡)

6 遺跡の年代 繩文時代、弥生時代、古墳時代、平安時代
7 遺跡及び木簡出土遺構の概要
8 木簡の釈文・内容

今山遺跡は弥生時代の石斧製作遺跡として著名であるが、今回の調査は、今山の東麓を走る主要地方道の拡幅工事に伴うもので、幅約5m長さ二五mを調査対象とした。調査区の標高は三・九mである。検出した遺構・遺物は、平安時代の溝、古墳時代の製塙土器群、弥生時代の石斧製作関連遺構、繩文時代

- 1 所在地 福岡市西区横浜二丁目
- 2 調査期間 第八次調査 一九九九年(平11)九月~二〇〇〇年三月
- 3 発掘機関 福岡市教育委員会
- 4 調査担当者 米倉秀紀
- 5 遺跡の種類 港湾施設跡カ
- 6 遺跡の年代 繩文時代、弥生時代、古墳時代、平安時代
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

今山遺跡は弥生時代の石斧製作遺跡として著名であるが、今回の調査は、今山の東麓を走る主要地方道の拡幅工事に伴うもので、幅約5m長さ二

五mを調査対象とした。調査区の標高は三・九mである。検出した遺構・遺物は、平安時代の溝、古墳時代の製塙土器群、弥生時代の石斧製作関連遺構、繩文時代の二・二mを測り、上幅五m深さ二・五m前後と推定される。南側両壁は石垣を施し護岸している。溝の底の途中に地山削り出しの土手が二カ所あり、土手を境に北側が深くなっている。南側土手は幅一mと広く、杭の痕跡が約一〇本ある。北側土手は幅五〇cmと狭いが、上面の標高を南土手とあわせている。南側土手から北には下層に水分を多く含んだ砂の堆積層があり、木簡はその層から自然木などとともに出土した。江戸時代の絵図によると、調査区北側には海が湾入しており、溝は湾の奥まで伸びると思われる。溝の南側土手から北には、満潮時には海水が入っていたとみられ、土手の存在や溝幅の狭さなどから、ドックの可能性が考えられる。

三点の削屑が出土したが、字が判読できるのは一点のみである。

(1) 南□□

(米倉秀紀)



69